

事業名		国営かんがい排水事業	地区名	ほくそうちゅうおう 北総中央
都道府県名		千葉県	関係市町村	ちばし なりたし さくらし どうがねし 千葉市、成田市、佐倉市、東金市、 やちまたし とみさとし さんむし 八街市、富里市、山武市
事業概要	本地区は、千葉県北部に広がる北総台地にあつて、千葉市ほか6市に跨る3,267haの地域であり、首都圏に近接した農産物の供給基地として県下でも有数の畑作を主体とした農業地帯である。 本地区は、主に地下水や台地からの浸出水を利用しているが、天水のみに依存している地域もあり、不安定な農業経営を余儀なくされている。 このため、本事業は、利根川河口堰及び霞ヶ浦開発に水源を求めた北総東部用水事業の幹線水路から、地区内に導配水する施設を新設し、関連事業と併せて末端用水路を整備することにより、安定的な用水補給と地下水からの水源転換を行い、農業用水の安定供給と農業経営の安定化を図る。さらに、末端用水路の整備により地区内の農業用水が従来から有している地域用水機能(防火用水)の維持・増進を図るものである。			
	受 益 面 積 3,267ha(畑2,859ha,水田408ha) 主要工事計画 取水口2箇所、揚水機場2箇所、用水路152.1km 総 事 業 費 50,400百万円(平成20時点50,400百万円) 工 期 昭和63年度～平成25年度予定 平成26年度～平成28年度予定(施設機能監視)			
評価項目	【事業の進捗状況】 平成19年度末までの全体の進捗率は、事業費ベースで66.8%である。 ・ 水源施設となる第2取水口から送水路、富里揚水機場、幹線用水路までが完成し通水が可能となっている。 ・ 末端用水施設の給水源となる調整水槽は、21箇所のうち4箇所が完成している。 今後は、積極的な水利用を目指している地域の施設整備を優先し、調整水槽と末端用水路等の整備を進めることとする。			
	【関連事業の進捗状況】 関連事業については、全体で21地区が位置付けられている。 平成19年度末時点の進捗は、水田を対象にほ場整備事業が1地区完了し、土地改良総合整備事業が1地区実施中である。畑を対象に畑地帯総合整備事業2地区が実施中である。 今後は、試験ほ場等による畑かん効果の啓発普及に加えて、国営事業で末端用水路を順次整備し多くのほ場で畑かん効果を発現させることにより、受益農家の事業に対する参加意欲を高めながら関連事業を推進していくこととしている。			
項目	【社会経済情勢の変化】 農業就業人口は、平成7年から平成17年にかけて6千人減少しているものの、平成12年から平成17年までの農業就業人口の減少率(9.3%)は平成7年から平成12年までの減少率(14.1%)と比較して小さくなっている。 農業産出額は、平成7年から平成17年の10年間に於いて、米は30%、野菜は28%減少しているものの、平成12年から平成17年までの減少率(米:13%、野菜:11%)は平成7年から平成12年までの減少率(米:20%、野菜:18%)と比較すると小さくなっている。 農家数は、販売農家戸数及び専業農家戸数とも平成7年から平成17年にかけて減少しているものの、農家戸数に占める専業農家戸数の割合は、22%(平成7年)から28%(平成17年)と大きくなっている。			

評 価 項 目	経営耕地面積が3.0ha以上の農家戸数は、平成7年664戸、平成12年749戸、平成17年876戸と増加しており、経営規模の拡大が進んでいる。 耕地面積は、水田、畑、樹園地とも平成7年から平成17年にかけて減少しているものの、平成12年から平成17年までの減少率(水田:2%、畑6%、樹園地17%)は平成7年から平成12年までの減少率(水田:6%、畑8%、樹園地27%)と比較すると小さくなっている。
	【事業計画の重要な部分の変更の必要性の有無】 事業変更計画が平成18年6月に確定したばかりであり、受益面積、主要工事計画及び事業費に変化がないことから、計画変更の要件に該当しない。
	【費用対効果分析の基礎となる要因の変化】 農業効果の算定基礎となる地域農業振興の基本方針については、平成18年度の変更計画確定時点から変化はない。また、主要な作物の作付面積、単価及び単収についても大きな変化はみられない。 なお、費用対効果分析結果は以下のとおりである。 妥当投資額 (B) 82,353百万円 総事業費 (C) 80,442百万円 投資効率 (B/C) = 1.02
	【環境との調和への配慮】 本地区は、パイプラインが主体であることから、環境・景観配慮を行う必要がある箇所は限られているものの、現在までに以下のような環境配慮を行っている。 ・ 第2取水口及び12号調整水槽付近にチョウゲンボウの姿が確認されたことから巣箱を設置したところ、現在までに巣箱に飛来していることが確認されている。 ・ 水質対策としては、富里揚水機場に遮光フロートを設置することにより、アオコ発生の抑制効果を上げている。
	【事業コスト縮減等の可能性】 以下のような対策を講じて工事費の縮減及び工事期間の短縮を図っている。 ・ 調整水槽の屋根構造は、コンクリートスラブ構造をアルミニウム合金製屋根構造に変更。 ・ 高さ10m 以内の調整水槽の側壁コンクリートは、現場打ちをプレキャスト工法(工場製作)に変更。 ・ 管水路工事は、公道下埋設とすることにより、用地費を縮減。また、道路の復旧に当たっては、既設道路路盤材を路床材として再利用するとともに、路盤材に再生砕石、表層舗装材に再生アスファルトを利用。 今後とも、調整水槽及び管路工事による工法の検討、再生資源の活用等によりコスト縮減及び工事期間の短縮を図ることとしている。

【関係団体の意向】

【評価項目のまとめ】

【第三者委員会の意見】

【事業の実施方針】